

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 6 年 6 月 10 日現在

機関番号：32638

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2020～2023

課題番号：20K00919

研究課題名（和文）新教科「歴史総合」「日本史探究」「世界史探究」に対応する教職科目の開発

研究課題名（英文）Development of teaching subjects corresponding to the new subjects "Modern and Contemporary History," "Advanced Japanese History," "Advanced World History."

研究代表者

戸川 点 (Togawa, Tomoru)

拓殖大学・国際学部・教授

研究者番号：50781225

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は新しく大きく変わった高校歴史教育に対応する教員を養成するための大学における教職科目の刷新を目指したものである。まず教員免許法を検討し、教科と教職に関する科目の大きくくり化や複合科目の設置が有効であることを明らかにしシンポジウムなどで報告を行った。また教科教育法などで扱うべき一般的包括的内容を検討し、高校教員からの聞き取りや台湾における歴史教育の状況調査を踏まえ、史料の取り扱い、時代区分の考え方、探究科目の内容について論文化し公表した。教職課程については各大学によってあり方が異なるため、これらの研究により今後の教職科目の基本的な方向性を示し、各大学における刷新を求め、本研究の成果とした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

今回、学習指導要領が変わり、高校社会科では近現代の世界とそこにおける日本を考える「歴史総合」や思考力養成を重視する「日本史探究」「世界史探究」などの新科目が置かれた。従来の科目と全く異なるこれらの新科目をどう教えたらよいか、現場や教職を目指す学生たちに戸惑いが多い。そのためにこれらの新科目に対応できる教職課程のカリキュラムを作る必要がある。本研究はそのための新しい教職科目の内容や方向性を明らかにしたものであり、これからの教員養成を進めるうえで必須の研究である。また本研究で明らかにした日本史や世界史の一般的包括的で精選した内容は現職教員の授業改善にも資するものである。

研究成果の概要（英文）：This study aims to reform university teaching courses to train teachers for the new and greatly changed high school history education. First, we examined the Education Personnel Certification Act and found that it would effectively broaden the scope of subjects related to both subjects and teaching and establish composite subjects. We reported our findings at symposiums and other events. Secondly, we examined the general and comprehensive content that the Subject Education Act should cover, and based on interviews with high school teachers and a survey of history education in Taiwan, we published papers on the handling of historical materials, the concept of periodization, and the content of advanced subjects. Since teaching courses differ from university to university, this study has achieved certain results by showing the basic direction of future teaching courses through these studies and calling for renewal at each university.

研究分野：歴史教育、日本古代史

キーワード：歴史教育 歴史総合 日本史探究 世界史探究

1. 研究開始当初の背景

文科省は2016年の中教審答申を受けて、「主体的・対話的で深い学び」の導入を基調とする新学習指導要領を策定した。高等学校版は2018年に告示されたが、その学習指導要領で高等学校の歴史科目として「歴史総合」「日本史探究」「世界史探究」が設定されることとなった。「歴史総合」は近現代の世界と日本のかかわりを扱うもので、一般的には世界史と日本史を融合した科目と受け取られている。また「日本史探究」「世界史探究」などの探究科目は知識暗記に重点を置くのではなく、現代の課題などを歴史的に思考する、思考力育成型の科目として設定された。しかし本研究開始段階では教科書もできておらず、高校現場や教員養成にあたる大学においてもどのように対応すべきか、多くの混乱があった。当時、本研究の研究代表戸川点は拓殖大学で教職課程の授業を担当しており、高大連携歴史教育研究会の第5部会(大学における歴史教育や教員養成を検討する部会)の副会長であった。そこで同部会の会長で、同じく東京学芸大学で教員養成にあっている小嶋茂稔と、さらに前部会長で、静岡大学や静岡大学人文社会科学部が主催する地歴教員養成講座などで教員養成にあっている岩井淳と相談し、このような高校現場の悩みや大学の教員養成課程におけるニーズに応える新しい教員養成のプログラムやコンテンツ作成を検討することとして本研究を開始することとした。

2. 研究の目的

新科目「歴史総合」「日本史探究」「世界史探究」を教える教員にはどのような力が必要であろうか。「歴史総合」を担当する教員には日本史と世界史の知識のみならず両者を一体として捉える深い歴史理解が必要であろう。「日本史探究」「世界史探究」を担当する教員には史料読解力をはじめ、問いを立て、問いを考える歴史的思考力、歴史的事象を分析し思考する方法論などが求められる。

ところが現在、多くの大学の教員養成課程でこのような力をつけることは可能だろうか。たとえば、史料を解説し、史料解釈し、そこから導き出される情報をもとに歴史像を組み立てるといふ歴史学の基本的な方法についての訓練は史学科の学生以外ではまず経験しないのではないか。これでは問いを立て、問いを考えるという授業の指導はできないだろう。歴史総合に対応できるような、日本史や世界史を一体のものとして捉え、考える方法を学ぶ機会などというものはそもそもこれまで想定すらされていなかっただろう。

このような状況を改善すべく、本研究では教職課程における新たな科目の構築を目指すものである。教員養成系大学であるか、開放制か、史学科での教員養成か、他学科での養成か、歴史学専門の大学教員が何人いるか、など大学ごとに条件が異なるため、どの大学でも有効なプログラムの構築は難しいが、カリキュラム改善のための基本的な考え方・方向性や複合科目の設定などについて研究を進めることを目的とした。

3. 研究の方法

(1) 大学における教員養成カリキュラムを構想するために、まずその大前提となる教育職員免許法の検討を行なった。特に「大きくくり化」や「複合科目」についての考え方を明らかにし、カリキュラム構想に反映させることを目指した。検討作業は小嶋茂稔を中心として分析し、その成果を研究会で共有することとした。

(2) 教員養成において充実した歴史教育、教科教育を行っていくためには、担当する教員の専門に偏ることなく、教員になる者にとって必要となる一般的で包括的な内容を扱う必要がある。またその一方で限られた授業時数で実施可能となるよう内容の精選も必要である。そこで日本史、世界史における一般的包括的内容について旧課程の「日本史 B」「世界史 B」、新課程の「歴史総合」「日本史探究」「世界史探究」の教科書を分析し、内容の精選を行うこととした。日本史については戸川点が、世界史については岩井淳、小嶋茂稔がそれぞれ担当し、進捗状況を研究会で共有した。

(3) できるだけ現場の実情や要望を反映させるため大学や高校における歴史教育の現状や現職教員の教員養成に関する要望の聞き取りを行うこととした。特に琉球大学では大学独自の複合科目として「歴史総合」を実施し、またそれぞれの離島ごとのテキストを作成するなど地域に根差す教員養成を行っている。こうした先行事例について聞き取りを実施し、参考とした。

(4) 台湾の歴史教育状況の調査を行い、「歴史総合」と「日本史探究」「世界史探究」との接続などを検討した。台湾では現在「台湾史」「中国と東亜」「世界史」と段階的に歴史を学ぶようになっている。特に「中国と東亜」は「中国」と東アジアの関連を考える科目であり、世界とその中における日本を歴史的に考える「歴史総合」を実践していく上で参考になる科目である。また台湾でも思考力養成型の考える授業が中心になっている。このような台湾の歴史教育の現状と課題についても現地調査を行い、その成果を本研究に反映させた。

4. 研究成果

(1) 新学習指導要領に対応した教員養成を行うためには複合科目の活用が重要である。その実践として小嶋茂稔が勤務する東京学芸大学で小嶋が「外国史研究と歴史教育」(A~C)の授業を設置した。この授業のうちアジア前近代史を対象とする「外国史研究と歴史教育」Aは小嶋が担当し、ヨーロッパ史を対象とする「外国史研究と歴史教育C」は岩井淳が非常勤講師として担当しており(なお、アジア近現代史を対象とする「外国史研究と歴史教育」Bは東京学芸大学の他の教員が担当している)精選した「世界史」や「歴史総合」の内容について専門的な解説を行うとともに指導法についても指導、演習を行い、複合科目として成果をあげている。なお、これら複合科目の活用などに関する論点についてはこれまで小嶋茂稔が日本歴史学協会・日本学術会議主催シンポジウムや高大連携歴史教育研究会第5部会のシンポジウムで報告し、論文「歴史総合の時代の教員養成」としても公表している。

(2) 日本史、世界史における一般的包括的内容については研究分担者それぞれが分析し、それぞれが担当する大学における概論や教科教育法の授業などに反映させている。通史または全時代に亘るテーマを設定することにより包括的内容の設定は可能であるが、限られた時間数に対応させるために精選も必要であった。その精選した内容が十分なものであるか、今後さらに検証が必要である。また取り扱うべき歴史用語の精選などについても課題を残している。なお、探究科目で重視される史料の取り扱いや時代を大観するために必要となる時代区分に関する考え方などについては戸川点が「史料読解力をどう育成するか」、岩井淳が「『歴史総合』と時代区分」として論文化している。

(3) 琉球大学での歴史教育についての聞き取り調査を2回、高校における歴史教育の状況及び教職課程に関する要望などの聞き取り調査については静岡県の教員3名、栃木県の高校教員1名、福岡県の高校教員1名、中学教員1名から聞き取りを行った。また台湾国家教育研究院を訪問し、日本と台湾による国際的な研究会を開催した。同会では台湾側から台湾における歴史教育

の実態を聞き取るとともに日本側からこの科研による研究成果をもとに戸川点「日本における歴史教育の現状と課題」、岩井淳「日台の歴史教育を比較する」、小嶋茂稔「新しい高校歴史教育の段階における日本の教員養成の課題」の3本の報告を行った。台湾の教育では「自主に行動すること、協力して活動すること、社会に参加すること」などが求められており、日本の「主体的、対話的で深い学び」と通じるところがあるほか、中学が通史的、高校がテーマ史的に実施され、探究活動が行われていること、テーマ史は必ずしもうまくいっていないなど課題もあること、一方、台湾独自の時代区分が行われていること、生徒に「他人が書いた歴史を読むのではなく自分で歴史を書く」ことを求めるなど先進的な歴史教育も行われていることを知ることができた。この国際的研究会の成果はそれぞれの教育実践や論文などに反映させている。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計13件（うち査読付論文 4件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 岩井 淳	4. 巻 17号
2. 論文標題 「英米のビューリタニズムとコモンウェルス」	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 『ビューリタニズム研究』	6. 最初と最後の頁 3 15
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 戸川 点	4. 巻 858
2. 論文標題 教科書の中の民衆像	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 58-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 戸川 点	4. 巻 4
2. 論文標題 史料読解力をどう育成するか	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 拓殖大学教職課程年報	6. 最初と最後の頁 57-67
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩井 淳	4. 巻 17
2. 論文標題 蒋渭水「臨床講義」の今日的意義 20世紀前半の台湾文化協会と民族運動	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 静岡大学人文社会科学部『アジア研究』	6. 最初と最後の頁 3-8
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 小嶋茂稔	4. 巻 42
2. 論文標題 陶徳民著『もう一つの内藤湖南増—関西大学内藤文庫探索二十年書評会紀要』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 『湖南』	6. 最初と最後の頁 —
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 戸川 点	4. 巻 870
2. 論文標題 シガラ神上洛事件とその後	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 日本歴史	6. 最初と最後の頁 9-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 戸川 点	4. 巻 3
2. 論文標題 令和3年発行予定中学校社会科教科書の調査・研究	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 拓殖大学教職課程年報	6. 最初と最後の頁 68-80
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩井 淳	4. 巻 840
2. 論文標題 今井宏『イギリス革命の政治過程』 「宮廷」対「地方」論の意義と 限界	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 5-15
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩井 淳	4. 巻 -
2. 論文標題 静岡歴史教育研究会の10年と今後のあり方	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 学部長裁量経費報告書『歴史教育の地域的基盤を構築する教材・教授方法の探究と高大 連携の進展』	6. 最初と最後の頁 47-56
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 小嶋 茂稔	4. 巻 847
2. 論文標題 「歴史科学大系」概観	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 歴史評論	6. 最初と最後の頁 41-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 岩井淳	4. 巻 19
2. 論文標題 『歴史総合』と時代区分-アイルランド史と台湾史から問う	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 メトロポリタン史学	6. 最初と最後の頁 1-26
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 戸川点	4. 巻 1188
2. 論文標題 教員養成課程から見る「歴史総合」/ 歴史学	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 思想	6. 最初と最後の頁 61-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 戸川点	4. 巻 19
2. 論文標題 『歴史総合』と『日本史探究』	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 メトロポリタン史学	6. 最初と最後の頁 27-48
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計24件 (うち招待講演 8件 / うち国際学会 6件)

1. 発表者名 戸川点
2. 発表標題 「『歴史総合』第2編近代化の検討」
3. 学会等名 高校歴史教育研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小嶋茂稔
2. 発表標題 「『歴史総合』の時代における教員養成の課題」
3. 学会等名 第17回シンポジウム 歴史教科書・いままでとこれから (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小嶋茂稔
2. 発表標題 「戦前東洋史学の展開と歴研の創立者群像」
3. 学会等名 歴史学研究会創立90周年記念シンポジウム 「『戦前歴史学』のアーリーナ 1932：歴研が生まれた頃」 (招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小嶋茂稔
2. 発表標題 「戦前日本における東洋史教育の特質 旧制中学校の教育内容から 見る戦前日本の中国認識 」
3. 学会等名 大阪歴史科学協議会2023年1月例会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岩井淳
2. 発表標題 「英米のピューリタニズムとコモンウェルス」
3. 学会等名 日本ピューリタニズム学会第17回研究大会（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岩井淳
2. 発表標題 「近世史から「歴史総合」を考える」
3. 学会等名 東海中学・高校土曜市民講座（招待講演）
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岩井淳
2. 発表標題 「「歴史総合」教科書における「近代化」の比較検討」
3. 学会等名 高校歴史教育研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岩井 淳
2. 発表標題 20世紀前半の台湾文化協会と民族運動 蔣渭水「臨床講義」の今日的意義
3. 学会等名 「台湾夢2049 超現代臨床講義」於・台北（招待講演）（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岩井 淳
2. 発表標題 「三つのブリテン革命」を考える ピューリタン革命・名誉革命・独立革命
3. 学会等名 初期アメリカ研究学会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岩井 淳
2. 発表標題 三つのブリテン革命再考 独立革命期におけるピューリタン革命・名誉革命の受容
3. 学会等名 イギリス革命史研究会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 小嶋茂稔
2. 発表標題 改正教育職員免許法下における歴史教員養成のための教職課程のあり方をめぐって
3. 学会等名 高大連携歴史教育研究会第7回大会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小嶋茂稔
2. 発表標題 内藤湖南の東洋史論の特質とその史学史的意義
3. 学会等名 国際シンポジウム「内藤湖南と石濱純太郎－近代東洋学の射程」パネル4（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 小嶋茂稔
2. 発表標題 陶徳民著『もう一つの内藤湖南像－関西大学内藤文庫探索二十年』第一部第7章と第8章を呼んで
3. 学会等名 内藤科研チーム書評会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岩井 淳
2. 発表標題 近代化と私たち テキスト構想案 改訂版
3. 学会等名 高等学校歴史教育研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岩井 淳
2. 発表標題 新学習指導要領と「市民革命」再考
3. 学会等名 地歴教員養成講座
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岩井 淳
2. 発表標題 ウェールズと合同問題ー同化と異化、紐帯と地域連鎖ー
3. 学会等名 科学研究費採択課題の研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岩井 淳
2. 発表標題 大学における複合科目の実践と「地域社会と歴史」
3. 学会等名 科学研究費採択課題の研究会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 岩井淳
2. 発表標題 「歴史総合」と時代区分
3. 学会等名 メトロポリタン史学会第19回シンポジウム「歴史教育の現状と課題ー「歴史総合」を手がかりにー」（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 戸川点
2. 発表標題 「歴史総合」と「日本史探究」
3. 学会等名 メトロポリタン史学会第19回シンポジウム「歴史教育の現状と課題ー「歴史総合」を手がかりにー」（招待講演）
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小嶋茂稔
2. 発表標題 高校歴史教師の教員養成制度について
3. 学会等名 高大連携歴史教育研究会第5部会研究会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 岩井淳
2. 発表標題 Relativising Periodisation :History Education, "Passive Periodisation", and Composite States
3. 学会等名 British East-Asian Conference of Historians (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 戸川点
2. 発表標題 日本における歴史教育の現状と課題
3. 学会等名 台湾国家教育研究院における研究会 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 岩井淳
2. 発表標題 日台の歴史教育を比較する
3. 学会等名 台湾国家教育研究院における研究会 (国際学会)
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 小嶋茂稔
2. 発表標題 新しい高校歴史教育の段階における日本の教員養成の課題
3. 学会等名 台湾国家教育研究院における研究会（国際学会）
4. 発表年 2023年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 戸川点（分担執筆）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 280
3. 書名 『人物で学ぶ日本古代史 3』	

1. 著者名 戸川点（分担執筆）	4. 発行年 2022年
2. 出版社 吉川弘文館	5. 総ページ数 336
3. 書名 『荘園研究の論点と展望』	

1. 著者名 岩井淳・山崎耕一編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 山川出版社	5. 総ページ数 331
3. 書名 『比較革命史の新地平 イギリス革命・フランス革命・明治維新』	

1. 著者名 岩井淳・道重一郎編	4. 発行年 2022年
2. 出版社 刀水書房	5. 総ページ数 359
3. 書名 『複合国家イギリスの地域と紐帯』	

1. 著者名 岩井淳・竹澤祐丈編	4. 発行年 2021年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 349
3. 書名 『ヨーロッパ複合国家論の可能性 歴史学と思想史の対話』	

1. 著者名 岩井淳・岡田健・川喜田敦子・君島和彦・木村茂光・戸川点・日高智彦・茂木敏夫・安井崇・油井大三郎	4. 発行年 2022年
2. 出版社 浜島書店	5. 総ページ数 222
3. 書名 『資料と問いから考える歴史総合』	

1. 著者名 戸川点編著	4. 発行年 2023年
2. 出版社 小径社	5. 総ページ数 305
3. 書名 平安時代はどんな時代かー摂関政治の実像ー	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	小嶋 茂稔 (Kojima Sigetosi) (20312720)	東京学芸大学・教育学部・教授 (12604)	
研究 分 担 者	岩井 淳 (Iwai Jun) (70201944)	静岡大学・人文社会科学部・名誉教授 (13801)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関